

【優秀賞】

それぞれの個性って？

坂出市立白峰中学校 二年 小林穂花

私は障がい者だからという言葉や、障がい者ならしようがないとう言葉がきらいです。

私の叔母は生まれた時から障がいがあります。もちろん、身体が不自由な分、困ったことがあることも知っているし、大変だということもたくさんあるかもしれません。身体に不自由がない人と比べると、生活も大変で他人から向けられる目も変わります。他人から向けられる目とは悪いことだけではなくもちろん良い目、もあります。心配してくれる、助けようと思ってくれるそんな目もあると思います。ですがそれぞれが相手にとってほんとうに良い目、言葉かけになっているのでしょうか。もちろん、ありがたい気持ちやうれしさを感じる気持ちもあると思いますが、人によっては障がいがあるからと言って、なんでもできないわけじやないと気を悪くする人もいるかもしれません。

私自身の体験で、叔母に何かしようかといったとき、「大丈夫自分でする。」と、何度も言われたこともあります。その時は手伝うといったのに少しイライラしてしまいました。ですが、そこから時間、日にちがたつうちに叔母の様々なことを自分でする姿を見てあの時は、なんでもしてあげればいいと思っていた自分の気持ちが変化しました。自分が小さい頃うまくできないけど自分でしたいと母や父、そして家族に言っていた事を思い出し、もしかすると、その気持ちに近いものがあるのでないかと感じました。

では、障がい者とはどのような人のことを皆さん是い浮かべ、どのように認識していますか？

障がい者とは目が見えないや、足や手が不自由、耳が聞こえないなどの人のことを思い浮かべるのではないでしようか。もちろんそうかもしれませんが、私たちにもそのような経験があつたのではないかと私は思いました。どうしたことだろうと考える人も多いかも知れませんが、骨折や目が腫れて眼帯を付けている時など、主にけがなどをしたときは、普段よりも、生活がしにくく感じるのではないでしようか。そんなときはみんな同じで自分一人では、なかなか、生活できません。常に身体が不自由な人たちのことを思うと私は、ほんとうに努力を重ねているすごい人なのだと思えるのです。

このように私たちも一時的に大変になつたりもしかすると、自分たちも障がい者という立場になつたりしてしまうまかもしれません。それなのに、身体が不自由な人たちに対して怖い、自分とは違う、といった偏った見方で最悪の場合いじめるなどの行為をしてしまうことがこの世界にはあります。好きなものがある、好きな場所がある、私はこんな性格などは、個性だと思います。結局障がいがある人にとっても、同じことが言えるのではないでしようか。

私の好きな言葉に「みんなちがつて、みんない」という言葉があります。その言葉は世界中のどんな人がどんな姿でもどんな考えでも素敵なことという意味があると私は思いました。

障がいということに関わらず、あらゆるところでその考え方は大切です。今、世界中で、ジェンダーレスや L G B T Q 、など多様性の時代です。そういった個性を、すべての人が明るくとらえ、尊重しあえているとは今は言えません。そのため自分の個性をみんなに打ち明けるのが怖いという気持ちを伝えられない人たちもたくさんいます。

私はそれぞれの個性をもつと明るく尊重しあえるようなそんな素敵な世界になつていってほしいと感じています。私たちは普通だと思っていますの人も多いかも知れませんが、普通とは人それぞれでみんな違う

ます。これが普通あれば普通とそういうった概念をなくしていくことが
それぞれが幸せであるく過ごしていける最大の近道なのではないか
と私は思いました。

「それぞれの個性」、このたつた七文字がすべての人にとって大切で、かけ
がえのないものだと本当に思います。すべての人が、自分ももしかし
たら同じ立場になるかも、その立場ならと、相手を思い考え合うこと
が、自分も相手も、すべての人が幸せになれるということを忘れずに
これからも、過ごしていきたいです。